

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
222BT23	鉄道経済学	経済学の視点から鉄道を考える	遠藤 俊太郎	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	鉄道経営、鉄道事業の費用・収益構造、経営形態、事業計画		
ディプロマポリシーとの対応	2. 交通産業および関連分野での基礎能力（技術・理論）を有し、関連分野で活躍可能な能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力（技術・理論）を身につける				
事前に受講するとよい科目	経済学 A/B、交通経済学				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	我が国の鉄道は世界的にみても稀な独立採算原則の下で収益事業として経営・維持されている。一方、人口構造や交通環境の変化、施設・設備の老朽化に伴う競争力の低下により、鉄道として経営を続けることが困難となる例も多くみられ、そのあり方が議論となっている。本科目では、鉄道事業の特性や課題について、交通経済学の基礎的な理論とあわせ、各地の事例を交え体系的に把握・理解する。				
到達目標	鉄道事業の構造やその事業環境を踏まえ、今後の「鉄道のあり方」について、受講生が現実的な視点から論理的に私見を述べられるようになることを目標とする。				
講義内容	我が国における鉄道の事業構造と特性、政策的位置付けについてその歴史や背景を含めて説明するとともに、事業環境の変化に対応した今後の鉄道事業経営の課題とその解決策等について、関連する基本的な経済学の考え方や事例を交えて現実的な観点から整理する。あわせて、国内外における鉄道改革の概要や諸外国における事例にも触れる。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	オリエンテーション	講義の内容や進め方、成績評価、留意点の説明		
	第2講	企業経営の基礎	企業の費用構造と収益構造、交通事業者のポートフォリオ		
	第3講	鉄道事業の特性	装置型産業、鉄道事業の費用構造と特性		
	第4講	統計から読む旅客輸送	日本における鉄道旅客輸送の推移とその背景		
	第5講	統計から読む貨物輸送	日本における貨物鉄道輸送の推移とその背景		
	第6講	運賃政策	上限認可運賃と協議運賃－運賃制度の概要と課題		
	第7講	鉄道改革－日本	国鉄の経営問題、国鉄再建・分割民営化とその後の課題		
	第8講	鉄道改革－海外	欧米主要国の鉄道改革		
	第9講	鉄道事業の経営形態	国営・公営・民営、上下分離、オープンアクセス		
	第10講	鉄道事業の現状と課題	人口構造・交通環境の変化と鉄道事業の持続可能性		
	第11講	交通政策と鉄道事業	交通政策における鉄道の位置づけ、事業法・補助制度		
	第12講	鉄道活性化の取り組み(1)	JR各社の取り組みと事業計画		
	第13講	鉄道活性化の取り組み(2)	大手民鉄・都市鉄道の取組		
	第14講	鉄道活性化の取り組み(3)	地方鉄道事業者および沿線地域の取組		
第15講	まとめ	将来に向けた鉄道経営の課題			
指導方法	スライドを活用しながら講義を進めます。小テストを実施するほか、講義内で発表等の機会を設け、受講者を交えたディスカッションを通じて理解を深めます。				
事前学習	授業前の事前学習として、次回講義のテーマについて自ら調べ、未習の用語等について明らかにし、課題をもって授業に臨むことが必要である。1時間程度の学習時間が目安である。				
事後学習	授業後の事後学習として、授業時に学習した内容に関連する事例について調べ、自らの考えをまとめることにより、授業で学んだ知識が定着し、理解を深めることができる。2時間程度の学習時間が目安である。				
成績評価方法	平常点（小テスト、発表等）50%、本試験（筆記試験）50%				
課題（試験・レポート）に対するフィードバックの方法	必要に応じ、個別のコメント返信や講義内での紹介・コメント等によりフィードバックする。				
テキスト	テキストは指定しない。各講義の内容にあわせて資料を作成し配布する。				
参考文献	講義内で随時紹介する。				
実務家教員による授業	○	教員 経歴	総合経済団体にてまちづくりや産業政策等に関する実務を経験したのち、ドイツにて交通政策の研究に従事。現職は公共交通関係のシンクタンク研究員。		
特記事項	実務経験を活かし、理論と現実の両面からアプローチします。積極的な参加を期待します。				